

令和２年度 第１回羽曳野市子ども読書活動推進委員会会議録（要録）

日 時： 令和２年１０月２７日（火） １３時３０分～１４時４５分

場 所： 羽曳野市役所 Ａ棟東中会議室

出席者：（委員）河津委員、瀬戸口委員、堂山委員、遠山委員、菅谷委員、細井委員、宮崎委員、山下委員、脇谷委員

（教育委員会）高井教育次長、上野生涯学習室長、薮中社会教育課長補佐

（事務局）奥野陵南の森図書館長、石田参事、岩佐課長補佐、安東

欠席者： 田川委員

傍聴者： １名

次第

１．開会

教育次長あいさつ

事務局より、録音して会議録の要録を作成し WEB 及び中央図書館で紙ベースで公開することを報告

委員紹介、事務局紹介

２．議事

会長あいさつ

第３次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

３．閉会

生涯学習室長あいさつ

報告

第３次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

進捗状況整理表により事務局から項目ごとに説明。図書館が事務局だが市全体の施策としてやっていくと、関係各課にも回答を出してもらって取りまとめた。

意見等

- ・いろいろと取り組みをしているが、それが有効か結果に現れないか。
- ・統計資料では０～６歳の登録が少ない。利用してもらう工夫が必要。
例）就学前からカードを持つことを意識してもらい、保健センターでの親への働きかけ、乳幼児のおはなし会の継続的な実施
- ・もう一歩踏み込んで実践的な取り組みがないと結果（＝数字）には結びつかない。取り組みの優先順位を決めて実施すれば成果が上がるのでは？
- ・学校司書教諭の項目について、司書教諭は学校司書とは別。
- ・学校では司書教諭ではないが学校図書館担当の教諭がいる。学校への聞き取りをしながら対応したい。
- ・学校図書館ではコロナ対策で開館や貸出に苦慮した。消毒作業に時間をとられ学校司書の専門的役割が進められるかというところがある。
- ・情報提供について、ホームページで「学校図書館ニュース」を掲載している。

- ・保育園ではコロナ禍でおはなしボランティアの来館は休止中。担任が節目でおはなしをしている。保育士ではなく外部の方がおはなししてくださるのは別の楽しみがある。
 - ・コロナ禍でマスクを着用して一定の距離をおいて読み聞かせをしているが、どうすればいいか苦慮した。
 - ・コロナ禍のためボランティアとして行っていた保育園に行けていない。子育て支援センターには行っている。
 - ・ボランティアのおはなし会では子どもの人数により大型絵本を使うなど対応してもらった。毎日消毒対応がある。
 - ・おはなしボランティアとしてコロナ対応に相当悩んだ。小学校でのおはなし会を辞退させていただいて心苦しかった。コロナとつきあいながらどうやって読書活動を進めていけばいいのか悩ましい。
 - ・おはなしボランティア入門講座の中身は？
→ボランティア 2 団体に隔年交代で講師を依頼する形で、講座としては毎年実施している。修了者が何人ボランティア活動に残るかは年により様々。乳幼児向けの講座を分けてはやっていない。
 - ・マンパワーが不足していると思う。講座における図書館の主体性はどうなのかと思った。
-
- ・YA（ヤングアダルト）はブックリスト配布だけの消極的施策では伸びない。例えばボードゲームを取り入れたり、意識的に足を運んでもらう取組みが必要ではないか。
 - ・YA では中学生に利用してもらうためのアンケートも一案ではないか。
例）なぜ図書館に行きにくいのか、使ったことはあるか、ないならなぜか（クラブで忙しい、場所を知らない、など）。選択肢を作って答えやすい形式がいいと思う。
-
- ・障がい児向けに本を用意しただけでは利用に結びつかない。（自分の経験として）親への働きかけ、遠足、音楽会などの取組みをして本の利用に結びつけた。
-
- ・子ども文庫では多くの本を図書館から預かっているので活用したい。そのために子ども文庫の存在を知っていただくことが必要。
→個人宅の文庫もあるのでどこまで掲載するか検討して **WEB** で紹介しては？
-
- ・図書館の児童書の予算は、予算全体が削られている中でも維持はしていきたい。
 - ・図書館だけではできない部分があり、大人の施策も含めて企画力は弱いので皆さんの力を借りてやっていきたい。最低限のことはしないとイケない。**WEB** でボランティアの育成、活動や募集も載せられればと考える。
 - ・情報発信、きっかけづくりをできることからこつこつとやっていくことが大事ではないか。